

“美万人”

BE MIND

古来 東洋では

「美感のあるところに 正しき生活あり」と言われ

西洋のプラトン哲学も

一口に示すと「美の教え」であった

ゲーテは「美は芸術の究極の原理であり 最高の目的」と明言し

トルストイは「美は快感なり」と記して

「芸術は人びとを合一させる手段のひとつ」と言った

それは然るものかもっている優れた性質に対して

人が感じる快感であり

情緒の感動が美であったからである

また「美」は生命に内在する

尊極なる資質を触発するものであり

眼に映える「証」である

ゆえに哲人は言う

「美は神が徳の上につける冠である」と

ああ 不思議なるかな

すべての望みは美に向うという

「花が花の本性を現するとき最も美しくなる如く

人肉が人肉の本性を現するとき美の最上に達する」と

美は人を高め 生命を浄化し

内なる健全さと 正しさの外への現われであり

目に見える正義 人肉の「証明」である

「美は真なり 真は美なり」美は真理の微笑なり

かくして美は存在の恵み「愛」となりしもの

美は幸福を約束する

人肉愛の交響楽

美は永遠の歓び 美は自由

美は平和 美は無限なるもの……

一色 友 丞